

■パブリックカフェ 実施報告

【参加の状況】

平成27年2月1日（日）に協働推進計画（案）に係るパブリックカフェを開催した。今回のカフェには、まちづくりカフェ経験者133人を対象に案内を行い、17名の参加を得た。この参加者から、パブリックコメントを引き出す意見をもらった。なお、参加の状況は次のとおりである。

① 参加区分別参加状況

	案内数	参加者	参加率
一般参加者(無作為)	113	10	8.8%
委員参加者	7	4	57.1%
ボラセン参加者	8	2	25.0%
職員参加者	5	1	20.0%
合計	133	17	12.8%

※一般参加者の内1名は代理参加者

② カフェ区分別参加状況

	安全・安心	高齢者	自然・歴史	子ども	その他	総計
男	2	1	1	1	2	7
女	2	3	3	2	0	10
計	4	4	4	3	2	17

※「その他」は、複数のカフェに参加した方、及び代理参加者で未経験者

③ 年代別参加状況

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	総計
男	0	2	1	1	2	1	7
女	0	1	1	4	2	2	10
計	0	3	2	5	4	3	17

【パブリックカフェの実施状況】

1. 実施概要

○目的：まちづくりカフェの意見を踏まえ、策定委員会で検討した協働推進計画の素案の報告とともに、その内容について感じたことを聴取し、その意見を計画に活かしていくことを目的とします。

○成果：・協働推進計画における協働の考え方や協働を推進する施策についての意見
・まちづくりカフェなどの参加で得たことや変わったこと、今後のまちづくりについての意見

○開催日時：2月1日（日）9：30～
はなやぎの里 3F 多目的ホール



○プログラム

1. 開会

2. あいさつ

①副町長あいさつ

②パブリックカフェについての趣旨説明

<進行役の紹介（福岡県まちづくり専門家：貞清）>

3. カフェ

①参加者紹介

②話題提供 ～広川町協働推進計画～ （政策調整課）

- ・計画（案）の構成、広川町が進める協働の考え方

- ・協働を進めるための施策（ポイント）

※委員からのコメント（塩澄委員、綾戸委員、原委員）

「カフェの感想や委員会で検討した際の印象」

ラウンド1

◆「広川町の協働、協働を進めるための施策について、感じたことは？」で意見交換

ラウンド2

※グループの中でホスト役1人を残し、他の人は他のグループへ

※簡単に自己紹介して、広川町の協働、協働を進めるための施策について引き続き意見交換

ラウンド3

※元の班に戻って、他の班での情報を確認し合い、新たな視点や気づきを意見交換

◆意見交換を経て、以下のことをA4用紙に記入

- ・計画（案）で良いと感じたことや気になったこと

- ・まちづくりカフェ、パブリックカフェに参加して得たことや変わったこと、これからのまちづくりについて

4. 閉会

2. 成果

■パブリック・カフェの意見の整理

No.	広川町の協働、協働を進めるための施策について	まちづくりカフェ、パブリック・カフェに参加して
1	リーダーを作ることが大事。 長延川をきれいにさせていただく（はなやぎの里）に水が入って困ったからということで、とても嬉しく思います。私のような未知の者が発言した一言を。	若い人、年配の人の話を聞き、何でも誰にでも話をし、一人で悩まないようにしようと思った。 昔のこと、地区のことなど、いろいろ教えてもらった。今日はとてもよかったと思います。 また、こんな機会があったら参加したい。家事と体と許す限り。
2	広川町の協働や協働を進めるための施策について良いと感じたこと 広川町には立派なはなやぎの里、新しい図書館の中にある、もっと利用。 数カ所の区で行われているサロン。	カフェに参加して 得たこと…グループで参加すればよい提案が得られる これからのまちづくり…住みよい広川町 健康で過ごす 一日 30 分～1 時間の散歩の実行（1 日 1 万歩目標）
3	・いろんな方々とお話して、身近なところから自分にできることを学ばせてもらったので良かった ・集まって話せる場所は、とっても必要であるので良いと思った。	・情報の共有化を広く考えていくようになった。 ・まちづくり、町に頼りっぱなしではなく、地区に自分たちでできるようにするなど、もっと。
4	課題のまとめは、1～5 まで大変重要なことで、しっかりとまとめてありました。 特に、1. の情報の共有化については、「伝わらない部分」については、慎重にしっかりと進めていく必要があると思いました。	参加された方々が各々に自分の活動を通しての問題点を抱え、「どうにかしたい」という思いが伝わり、それからどうするのか、というのがこの集りだったと改めて感じました。
5	基本施策 5 の課を越えた組織の連携、是非、実現してほしい。 地域づくり、まちづくり、いろいろな課や係が取り組んでいらっしゃいます。同じようなことを何度も…どこも…ではなく、みんなでまちづくり、地域づくりを同じ目線と同じ速度でやってほしい。	5 年後、10 年後、広川町はきっと変わっているはずだと思います。 役場内の人事異動があっても、みんなが同じ思い、想いで、この計画の実現のための仕組みづくりを町民と共に行っていただきたいし、行っていきたいと思います。 絵に描いた餅にならないための仕組みづくりが重要です。
6	協働推進計画を実現するためには、その推進の仕組みづくりが大切だと思います。	誰もが町を良くしたいと思っておられるが、方策がわからないとの意見が多かった。

	各行政区にはまちづくり委員会があるので、そこを活用した仕組みづくりが良いのではないのでしょうか。	やれることを少しずつ実施していくので良いと思います。 行政区間の連携をしながら解決していくのも大切と思います。
7	<p>広川町協働推進計画案について、施策について</p> <p>感じたこと：計画案が立派であること</p> <p> 施策については、実現するための方法をもう少し考えてもらいたい</p> <p>気になること：文章が難しい。少し理解しにくい。</p>	<p>カフェに参加して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・皆さん達の考えていることが少しわかった気がする ・まちづくりに取り組む人達が思ったより多くの人が出たこと ・これからのまちづくりとして、計画を実現するような人づくり（リーダーシップ）を作ること。
8	<ul style="list-style-type: none"> ・サブタイトルの加筆（むしろ「広川町協働推進計画」をサブタイトルでも） ・すぐに捨てられないように、「保存版」を入れる ・絵の人物を多くの世代の人物にする ・シンボルマークの挿入 ・ボランティアセンターからの積極的な情報発信 ・わかりやすいイラスト、具体例がある ・先導するトップが必要（いないと迷う） 	<p>◎昔のように、まずは人と人とのつながりを復活させることが重要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に隣組の活動が基本のように感じる。 <p>◎「子ども」が「つながり」のきっかけを持っていると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児と高齢者の関わり ・子ども達の把握している情報も活用する <p>非常に勉強と刺激になりました。</p>
9		<p>高齢者活動達人登録</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の特技を活かした活動促進 2. 家庭訪問 3. 回覧板 4. 廃品回収
10	<p>協働推進計画→サブタイトルを考えよう（なじみやすい名称）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この計画を町民にわかってもらうため、行政区を通じ説明が必要。 ・ボランティアセンターについて 自分から発信して、いろいろなボランティアさんを養成する ・まちづくりカフェなどを各行政区で、いろいろな年齢を考えて意見を出し合う。 ・この計画書が絵に描いた餅にならぬよう。 	<p>これからのまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今、困っていること、こうなってほしいことなど、町民それぞれが助け合うことにより、よくなると思う。

11	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広川町協働推進計画の名前が難しい。サブタイトルとして、もっとわかりやすいロゴを使ってPR。 ・ 隣組の活用の話を聞いたこと。 ・ ボランティアセンターの活用について。 ・ カフェづくりって素晴らしい（おもしろい！）。 ・ 昔の良さを取り戻す計画なのでは、という意見が出たが、同感！広川ならばできる！やりましょう！ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幅広く町を見ることができた。 ・ 少し動ける（カフェでの皆さんの話を聞いて）できることは動いてみる。 ・ この計画について、町民の皆さんに理解していただくには、文章としてより心（口）で伝える方がわかりやすいだろう。 ・ リーダーの旗振りも重要。
12	<p>施策についてよく理解できました。わかりやすくてよかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知らなかった子ども達（民生委員児童委員）の様子を知ることができた。 ・ 参加している皆、町のこと、町民のことに思いをはせていられる。 ・ 地域のことは地域で、とはいっても難しいが、その地域が難問解決できたら、良い事例として参考になる。 ・ 若人（中学生、高校生）交えてのカフェ。
13	<ul style="list-style-type: none"> ・ まずはタイトルが固いし、わかりにくいので、サブタイトルをつけてほしいということ。 ・ 内容（やれること）ができない行政区もでてくるのでは？ ・ 現在、地域コミュニティに興味がない、面倒くさいなどでまちづくりに参加しない若者が増加しているが、どう関わってもらおうか？ ・ 久泉のメールやその他の取り組みが素晴らしい！ 	<p>参加している方々の意識が非常に高く、意見を聞くだけでも大変勉強になりました。</p> <p>日頃から自分の関わっていない分野は、見落としがちになる話も多く、参考になりました。</p>
14	<p>①協働のまちづくりを進めるため、地域コミュニティ独自の活動の活性化やボランティアセンターの役割が重要視されていることを痛感した。</p> <p>地域の活性化のためには、意欲を持った潜在的人材を発掘することや転入してきた新しい住人の力を借りることを怖れないことが重要であり、古くから住んでいる住人の意識改革、役員そのもののあり方（意識と知恵）なども不可欠と感じた。</p> <p>②ボランティアセンターの役割の認識を深め、スキルアップしていくことも重要だが、行政あるいは一般的に、「安価な活動力」と位置づけられることがないように留意も必要。</p>	<p>知らない人と出会い、他区の活動や考え方を知ることができて、本当に有意義だったと思う。</p>

15	<ul style="list-style-type: none"> ・計画案はとても素晴らしいものができているので、その実現に向けての取り組みが大事だと思いました。 地域性や住民の方の意識が異なることを踏まえた活動が重要だと考えます。 ・ボランティアの重要度がとても高い案だと思います。 協力者を掘り起こすための情報の発信、提供が大切だと思いました。 	<p>住民の方が広川町に対して、「熱い思い」を持っていることを改めて感じました。</p>
16	<ul style="list-style-type: none"> ・計画案、やはり文字が伝わりにくい部分がある。(自律、協働…) ・少し昔の時代に戻ってもいいのかなという提案に感じた。 ・久泉のメール配信には感心した。 ・ボランティアに期待が大きすぎでは？ 今から拡充の必要性を大きく感じた。 ・NPO、ボランティアの認知度を上げていかないといけない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・熱意のある方が多いことに驚いた。 ・会話するって大事だなと感じた。 ・地域性について考えさせられた。(東部地区は地域活動自体難しい)

資料 計画案説明のパワーポイント

広川町協働推進計画(案)



ようこそ！
まちづくりカフェひろかわへ

平成27年2月1日
パブリック カフェ
2015

広川町協働推進計画策定委員会

地域社会の課題

<道の課題>

- ・道路が整備されていない！
- ・公道がない！
- ・上下水道が整備されていない！
- ・施設や働く場所を増やすために工業団地の整備が必要だ！
- ・産業廃棄物を処理し、住みやすい町にしたい！
- ・教育問題・防災・防犯の課題。 etc.

主に公共施設の整備が中心的な課題

<環境の課題>

- ・防災・防犯・防火など安全安心をもちにしたい！
- ・自然環境を守り、住みよいまちにしたい！
- ・子育て支援を充実してほしい！
- ・高齢者がいつまでも元気で過ごせるまちにしたい！
- ・道路・公道・下水道などのインフラの整備。 etc.

以前以上に高齢-多難化するコース、また、拡大するコース。

一人で出来ないから、一緒にやる

地域社会の課題

住民自治の領域
(地域、市民公益活動団体、企業・事業所)

協働の領域

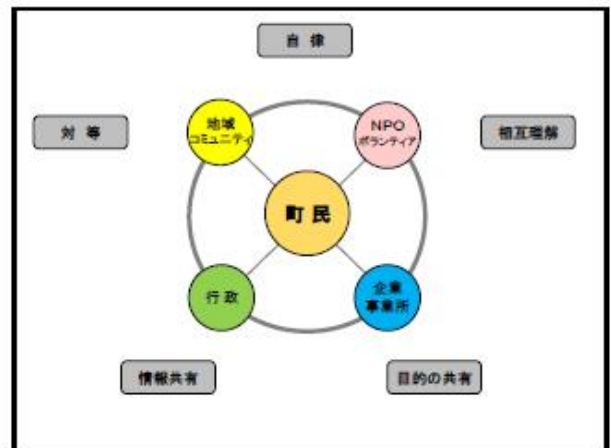
行政サービスの領域

活動する協働

- ・共に相手を理解し、互いに尊重しあうことで信頼関係を築く
- ・自分たちで出来ることは自分たちで自主的に解決する
- ・信頼を共有し、自分たちだけで解決できない課題に対し、それぞれの特性を生かし、協力してまちづくりに取り組む

対応する協働

- ・まちの課題共有に積極的に取り組む
- ・対応する場と機会を作り、主体的に参加する
- ・住民参画の場を確保し、積極的に参加する



■ 協働を進めるうえでの課題

【課題1:町民と行政との情報の共有化が図られていません。】
 【課題2:地域コミュニティの活性化が必要です。】
 【課題3:市民公益活動の活性化が求められています。】
 【課題4:組織の連携が求められています。】
 【課題5:町民や行政が自律して行動する協働推進のための仕組みが必要です。】

↓

■ 協働を進めるための施策

【施策1:町民と行政との情報の共有化の推進】
 【施策2:地域コミュニティの活性化】
 【施策3:市民公益活動の推進】
 【施策4:組織の連携と交流促進】
 【施策5:協働推進のための仕組みづくり】



【施策2:地域コミュニティの活性化】



【施策3:市民公益活動の推進】



【施策4:組織の連携と交流促進】



【施策5:協働推進のための仕組みづくり】



推進計画の進捗とフォローアップ

① 計画の位置付け

町の第4次総合計画の基本施策1「出会いと暮らしのあるまち」の「協働のまちづくりの推進」に掲げる施策の実現のための個別計画。

② 計画の期間

平成27年度(2015年度)～平成31年度(2019年度)
 <5箇年計画>

③ 計画の見直し

この計画が着実に実行され、協働のまちづくりが進んでいるのかを検証するために、計画目標の5年を目途にフォローアップを行います。

協働は
 「一人で出来ないから、一緒にする」

協働の現状

